

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ヘブライ54- 永遠の大牧者』

武田真治牧師

イザヤ書 62 : 6-7 ヘブライ手紙 13 : 17-21

この手紙の最後で著者が何をとり上げているのかと見れば、まさに「礼拝」のことだと言い得ます。10節に「わたしたちには一つの祭壇があります」と、ユダヤ教の祭儀で使われたたくさんの祭壇ではなく、新しい一つの祭壇があると。次の節に“血と体”という言葉が出てきますように、これが今の私たちの礼拝の中心にある“聖餐台”と考えられます(=それは天のみ国での礼拝と繋がっています!)。そして12節と13節では「イエスもまた門の外で苦難にあわれた」ように「だから、わたしたちも宿営の外に出て、みもとに赴こう」と。これは、私たちの礼拝場所は、これまでの神殿やユダヤ教の会堂から、そしてこの世の生活からも「出て」、新しく“イエス様と会える場所”を求めて行こうと。そして15節は「だから、イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう」と礼拝の内容は、もはや動物を献げる儀式ではなく“唇の実=讚美歌・祈り・聖書朗読・説教・信仰告白”であるのだと!

その流れに今日の箇所もあります。即ち17節「指導者たちの言うことを聞き入れ、服従しなさい。この人たちは、あなたがたの魂のために心を配っています」です。これまでの礼拝は祭儀を行うために聖別された“祭司”がもっぱら行い、参加者は目撃するだけでしたが、新しい礼拝にはそんな特別な聖職者はいらない、自分たちの中から、同じ主に従う者同志で“指導”してくれる人物として、「指導者」(=ギリシア語のヘグーメノス、導く=アゴーの複数形名詞)を任命するのだと、決して特別で聖なる存在ではないのなのだ。20節に「永遠の大牧者、わたしたちの主イエス」とありますように、主こそが“大牧者=大祭司”であり、我々はみな“羊”だと。これが私たち教会の基本となるあり方です(この後のカトリックでは、また特別な聖職者=祭司へと格上げされてしまい、プロテスタントがそれを修正したと言い得ます)。

ただその指導者に「聞き入れ、服従しなさい」という命令には少々驚きます。そこまで言わなくてもと思いますが、当時の教会がそのように言わなければならない程、危うい状態だったということなのです。この13章7節に「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを思い出しなさい」とあり、9節には「いろいろ異なった教えに迷わされてはなりません」とも。様々な教えや宗教、人物が教会の中に入り込んで来ていたことが分かります。まだ発展途上であったと言い得るでしょう。この後、著者は「わたしたち(指導者・伝道者)のために祈ってください」とお願いをしています。いつの時代も、指導者・伝道者は大変な仕事だったのですね。こんな私のことも祈りに覚えて頂けると幸いです。

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 8月2日(水) 20:00
II. 8月3日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 平和聖日・平和祈念集会を覚えて
担当者: (水)高村 (木)阿部
祈りに覚える人: 坂田さん 佐川さん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女53 計70
祈禱会 I. 男5 女3 計8 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科6 小中科13 計19
ひつじ雲の会(7月25日(火)) 男0 女5 計5

【次週主日礼拝】 8月 6日(日)

聖書: エゼキエル書 37:24~28
ヘブライ人への手紙 13:18~21

説教: 「平和聖日・ヘブライ55—
平和の契約」 武田真治牧師

讚美歌: 373(1)、32、371(1と2)、371(3と4)、393(1、3、4)、79(1と2)、24

【次週当番表】

司式: 坂田長老 奏楽: 村上 礼拝: 保坂長老
配餐: 飯田 茨木 岩佐 金刺
金刺 各長老

献金: 鈴木 鈴木 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田
看板: 保坂 週報: 岩佐 お花:

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・8月誕生者祝福 ・長老会 ・会堂管理委員会
・お茶の会 ・牧師と語る会 ・聖歌隊練習

2023年 7月 30日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>